

巻頭言

2023年10月7日に勃発したガザ地区の激しい戦闘は終息の兆しもなく、尊い人命が失われる惨状に一日も早い解決を祈るばかりである。

第75回正倉院展は、2023年10月28日から11月13日まで、奈良国立博物館で開催された。『国家珍宝帳』の筆頭に記載される「九条刺納樹皮色袈裟」が出陳された。聖武天皇の仏教への篤い信仰を象徴する品である。天平勝宝八歳（756年）から1200年以上を経た時の流れを思いつつ、仏法によって国家を護ろうとした聖武天皇に思いを馳せる。

近代文化研究所は、8月に烏谷知子執筆の『ブックレット16 近代文化研究叢書『古事記』にみる敗者の形象』刊行を契機としたシンポジウムを開催した。三浦佑之先生、松田浩先生にご登壇いただき、「ヤマトタケル—敗者の形象—」というテーマで、報告と意見交換が行われた。太安万侶没後1300年にあたる2023年、『古事記』や『日本書紀』に記された古代のヤマトタケル像と近代国家が求めた英雄像の問題を探った。学内外を問わずテーマに関心をもった参加者の方々に支えられ、交流がはかられた。本号に要旨を掲載する。近代文化研究所の研究成果が受け止められていることを励みとし、今後も地道な研究活動を続けていきたい。

『近代文化研究所紀要』第19号は、「国会議事堂の中央広間と高塔の意匠ならびに高さの決定要因—聖徳記念絵画館、旧枢密院庁舎、日本橋三越本店との比較—」の論文、「昭和女子大学近代文庫所蔵「與謝野晶子書簡」コーパス化の基本設計—日本文学コースプロジェクト5の取り組みと今後の公開に向けて—」の研究ノート、「文化村と生活改善同盟会」の研究余滴を掲載する。いずれも文化の保存と継承に関わる取り組みであり、研究ノートは新しい研究方法を取り入れた試みである。ご一読ご批判ご叱正を乞う。

8月8日に平野晶子所員研究員が逝去された。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(近代文化研究所所長 烏谷 知子)

執筆者紹介（五十音順）

磯野 さとみ（いその さとみ）環境デザイン学科教授・近代文化研究所所員研究員・博士（学術）

「昭和初期の台所改善に関する研究(4)—福岡県への視察を契機とした山口県の昭和2年の台所改善運動について—」学苑923, 2017年／『ブックレット 近代文化研究叢書6 理想と現実の間に 生活改善同盟会の活動』昭和女子大学近代文化研究所, 2010年／「生活改善同盟会の事業概要」学苑704, 1998年／「文部省外郭団体「生活改善同盟会」の設立経緯と設立活動の中心人物」(共著)生活学論叢2号, 1997年／ほか

堀内 正昭（ほりうち まさあき）歴史文化学科非常勤講師・近代文化研究所客員研究員・博士（工学）

『ブックレット 近代文化研究叢書15 国会議事堂の誕生 仮議事堂からの5代にわたる建築史（1886～1936）』昭和女子大学近代文化研究所, 2021年／『ブックレット 近代文化研究叢書13 世田谷の近代住宅—和洋折衷の多様な展開—』昭和女子大学近代文化研究所, 2018年／『旧近衛輜重兵大隊営内射撃場の調査報告ならびに復元的考察』（世田谷区文化財調査報告集26）, 世田谷区教育委員会, 2018年／『ブックレット 近代文化研究叢書10 初代国会仮議事堂を復元する』昭和女子大学近代文化研究所, 2014年／ほか

宮崎 由美（みやざき ゆみ）日本語日本文学科専任講師・近代文化研究所所員研究員・博士（文学）

加藤安彦ケータイメールコーパス—親密度・絵文字 Unicode 情報が付与された2000年代10年間のデータ—」計量国語学34巻2号, 2023年／『小説会話文への話者情報付与』（「日常会話コーパス」プロジェクト報告書5）国立国語研究所, 2022年／Annotation and Quantitative Analysis of Speaker Information in Novel Conversation Sentences in Japanese. *Proceedings of the Eleventh International Conference on Language Resources and Evaluation*, LREC, 2018年／「法律用語「作為」を中心とした辞書記述の提案：法律語義と一般語義の類義関係をふまえて」社会言語科学会第32回研究大会論文集, 2013年／『講談社 類語辞典』（共著）講談社, 2008年／ほか